

ACHRAG 研究成果報告

「バビロン賛歌」音楽化プロジェクト

学術的復元テキストに基づく、失われた古代賛歌の音響的再構成

公開日：2026年8月8日 発表：ACHRAG 霊響部門 (Sacred Resonance Division)

要旨

本稿は、2025年に学術発表された古代メソポタミアの賛歌「バビロン賛歌」（原題：A Hymn in Praise of Babylon and the Babylonians）の復元テキストを一次資料とし、当部門がアラビア語による翻案歌詞を作成し、AI作曲技術を用いて全6曲の音楽作品として制作した経緯・方法・学術的根拠を報告するものである。

本作品はアッカド語原音の科学的な音声再現を目的とするものではなく、セム語族としての音韻的な同系性を手がかりとした、学術的根拠に基づく音楽的・詩的翻案であることをあらかじめ明記する。

1. バビロン賛歌とは何か

本作品の原典である「バビロン賛歌」は、紀元前1000年頃に作られたとされる、アッカド語（現在は話者のいない古代セム語族の言語）による楔形文字文書である。3000年近くにわたり失われていたが、バグダッド大学とルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン（LMU）の共同研究チームが、AIを用いた断片照合技術によって30点以上の粘土板片を接合し、本文の約3分の2にあたる復元に成功した。

本プロジェクトは、この学術的な復元成果を一次資料として利用し、当部門独自の翻案・音楽化パイプラインを通じて全6曲の組曲として再構成したものである。

2. 学術的な出典

本プロジェクトが依拠した復元テキストの出典は以下のとおりである。

Fadhil, Anmar A. and Jimenez, Enrique (2025).

“Literary Texts from the Sippar Library V: A Hymn in Praise of Babylon and the Babylonians.”
Iraq, volume 86 (2025), pp. 21–78.

Cambridge University Press, for The British Institute for the Study of Iraq.

DOI: 10.1017/irq.2024.23

公開区分：オープンアクセス（CC BY-NC-SA 4.0）

本論文はオープンアクセスであり、原文・英訳・学術的注釈の全文を無償で閲覧できる。当部門は本論文の英訳を一次資料とし、次章以降で述べる翻案作業を行った。

3. 翻案の方法 — なぜアラビア語を選定したか

原典のアカド語は現存する話者のいない言語であり、現行の音声合成・音楽生成技術によって忠実に「歌う」ことはできない。そこで当部門は、アカド語が属するセム語族の中で、音韻的な保守性が最も高いとされる現代標準アラビア語（フスハー）を選定し、これを翻案の言語的基盤とした。

翻案にあたっては単なる意味の翻訳にとどまらず、アカド語とアラビア語の間に比較セム語学的に確立された音韻対応関係に基づき、可能な限り両言語で音が近い同系語（コグネイト）を選定して歌詞を構成した。

例えば、「神」を意味するアカド語 *ilu*（イル）はアラビア語の *ilah*（イラーフ）に、「平和」を意味する *shulmu*（シュルム）はアラビア語の *salam*（サラーム）にそれぞれ対応する。こうした対応関係が明確でない語については、標準アラビア語の訳語によって意味を補った。

注記：本作品はアカド語原音の科学的な音声再現ではない。セム語族としての音韻的なつながりを手がかりにした、音楽的・詩的な翻案である。

翻案歌詞の一例（第4曲「バビロン讃歌」冒頭）

كالبحر، تمنحُ بابلُ عطاءها،

كبستانٍ مثمرٍ، تزهر بمفاتها،

كموجةٍ، يتدفقُ خيرُها متلاطماً.

(English reference translation:)

Like the sea, Babylon proffers her yield.

Like a garden of fruit, she flourishes in her charms.

Like a wave, her swell brings her bounties rolling in.

4. 欠損・破損箇所の扱い

原文は粘土板の物理的な破損により、全体の約3分の1が現在も失われている。当部門はこの欠損部分を創作によって埋めることを一切行っていない。英訳版において「[...]」と示された欠損箇所は、翻案歌詞上でも「(…)」として明示し、楽曲上ではハミングや間（沈黙）として音楽的に表現した。

特に第6曲「破損部分」は、原文末尾の約100行が失われた状態を反映し、旋律を意図的に断片化させ、静寂を多く含む構成とした。これは、古代の粘土板そのものが持つ「欠けたまま残っている」という性質を、音楽の形式で伝えるための意図的な選択である。

5. 制作プロセス

- ・原典テキストの入手：オープンアクセス論文（前掲）より復元済み英訳を取得
- ・翻案：比較セム語学の知見に基づくアッカド語・アラビア語間の同系語対応表を作成し、歌詞化
- ・作曲・生成：AI作曲サービス「SUNO」を用い、各章ごとに2種類の楽曲候補（テイク）を制作
- ・選定：波形の音響的特徴を分析したうえで、複数のAIによる独立した聴感評価を実施し、各章の最適なテイクを決定

選定に用いた具体的な技術的手法・分析パラメータについては、当部門の研究基盤に関わる情報であるため、本稿では開示していない。あらかじめご了承ください。

6. 全6曲の構成

章	曲名	内容
第1曲	冒頭讃歌	マルドゥク神への呼びかけと称賛
第2曲	神からマルドゥクへの讃歌	神々の間で交わされる祝福の言葉
第3曲	エサギラ神殿讃歌	マルドゥクの神殿エサギラの荘厳さ
第4曲	バビロン讃歌	都市バビロンとユーフラテス川がもたらす豊かさ
第5曲	市民讃歌	バビロンの人々の正義と、女性たちへの敬意
第6曲	破損部分	失われた結末 — 断片として残る古代の言葉

7. 本作品の位置づけ

本作品は、失われた古代の言葉に「音」という形を与える試みである。アッカド語という死語となった言語の音そのものを科学的に復元したものではなく、現存するセム語族の言語的記憶を手がかりに、3000年前の賛歌が持っていたであろう響きへ想像的に接近する、学術的根拠に基づいた芸術的解釈であることを重ねて申し添える。

原文の学術的復元という偉業を成し遂げたバグダッド大学およびLMU ミュンヘンの研究チームに、深い敬意を表する。

出典・参考文献・関連リンク

一次資料

Fadhil, Anmar A. and Jimenez, Enrique (2025).

“Literary Texts from the Sippar Library V: A Hymn in Praise of Babylon and the Babylonians.”
Iraq, vol. 86, pp. 21-78.

論文本文（Cambridge Core・オープンアクセス）：<https://doi.org/10.1017/irq.2024.23>

electronic Babylonian Library（eBL プラットフォーム）：<https://www.ebl.lmu.de/>

関連報道記事

An Ancient Hymn to Babylon is Reawakened（The Wild
Hunt）：<https://wildhunt.org/2025/07/an-ancient-hymn-to-babylon-is-reawakened.html>

Hymn to Babylon discovered（Archaeology News Online
Magazine）：<https://archaeologymag.com/2025/07/hymn-to-babylon-discovered/>

当部門・ACHRAGについて

ACHRAG 公式サイト：<https://achrag.org>

お問い合わせ：contact@achrag.org

制作：ACHRAG 霊響部門（Sacred Resonance Division） | 発表日：2026 年 8 月 8 日